

## 【創立記念事業・趣意書】

### 学校創立150周年記念事業趣意書（お願い）

わたしたちの穎娃郡地区は、平穎娃氏・肝付氏所領の旧開聞町から旧穎娃町にまたがる広大な領地の穎娃城（通称・獅子城、野首城）城下麓の中心に位置し、交通、商業、教育・文化の中心として栄華を誇りました。当時、薩摩藩の教育機関の中心は開成所と造士館（山下町・旧県庁跡付近）でしたが、穎娃郡麓には学塾・健児の舎があり、郷士の子弟教育が既に進められていました。

明治元年3月の藩政改革に際し、鶴丸城下内の開成所と造士館を合併して藩立の本学校を建て、その後、小学校第一校から四校まで開設されます。穎娃郷では、諸郷に先立つ明治2年8月穎娃村郡地区麓の地頭仮屋（旧穎娃町役場跡）に学校を設立し、蜂須賀六太夫先生を校長（8年学務取締）に任じ、壮丁（満20歳に達した男子）を教育しました。後に、これを本学に届け外城第九郷校と称しました。（故山内広助翁談）当時の校舎は木造平屋建て3棟153坪半、12教室で、第一歩を踏み出してから平成31年度（2019年度）をもって、学校創立150周年の歳月を経ようとしております。

新緑まぶしい大野岳を背景として穎娃郡麓を中心としたこの地に、目覚ましい発展と安定したまちづくりに勤む穎娃郡区民にとりまして、待ちに待った慶事であると共に、三町合併後のわが町穎娃の発展におきまして、誠にめでたく意義深いことと存じます。

学校の沿革は、

- 伝聞 戦国・江戸期より、穎娃郡・麓の地頭仮屋に郷士子弟の学塾・健児の舎として、公的教育施設あり（「穎娃町郷土史」改訂版・H2.12.20発行 P612頁「第1節学校教育」参照）。これより施設・体制移行したものが黎明期と考えられる。
- 明治 2年（西暦1869年以下表記略）8月 地頭仮屋（旧穎娃町役場跡）に学校を設立。蜂須賀六太夫を校長（8年学務取締）に任じ、壮丁（満20歳に達した男子）に文武を講ず。（故山内広助翁談）※ 薩摩藩開成所・造士館付き小学校に届け外城第九郷校と称す。
  - 8年 穎娃小学校と改称し、普通教育を施す
  - 23年 学制変更により、穎娃高等尋常小学校と改称す
  - 25年 新教育令実施により、穎娃尋常高等小学校と改称す
  - 35年 高等科は、分離特設、穎娃尋常小学校と称す
  - 42年 高等小学校を廃止し、尋常小学校を併置、尋常高等小学校となる
- 大正 7年 実業補修学校を併置す
  - 12年 実科高等女学校を併す
  - 13年 村立図書館、青年訓練所併置
- 昭和 5年 村内各校の公民学校を統一して公民学校と改称す
  - 16年 国民学校令により、穎娃国民学校と改称す
  - 22年 学制改革により、穎娃小学校と改称
  - 23年 学校給食開始
  - 26年 学校図書館を設け、普通教室4教室を増築する
  - 29年 防火水槽兼プール竣工（校区民、卒業生の寄贈）
  - 35年 鉄筋校舎2階建7教室竣工（翌36.1.1 鉄筋校舎完工）
  - 40年 講堂落成
  - 45年 100周年記念式典挙行、補助プール及び付帯設備設置
  - 48年 附属穎娃幼稚園開園
  - 56年 新体育館落成祝賀会（協賛会方式）、純心高校体操部招待
- 平成11年 創立130周年記念として航空写真撮影

19年 三町合併により南九州市立颯娃小学校と改称  
20年 創立140周年記念として航空写真撮影等を行う  
で、現在に至ります。

ここに創立150周年を迎えるに当たり、校区民の総意をもちましてわが颯娃小学校の「温故知新以可為師（故きを温ね新しきを知り、以て師たる可し）」を大切にしながら、これからの校区の一層の発展と教育・文化の振興に寄与するため、次の記念事業を計画します。

1. 創立150周年記念式典、記念教育講演会、祝賀会の開催
2. 記念リーフレット、文集等の編集・作成
3. 航空写真撮影（記念品用に活用）
4. 教育施設・設備等の充実（植樹、施設改修等）
5. 子連、育成団体等による記念事業・活動の共催等

- 寄付金：1口1,000円（複数可）
- 受付と〆切り
  - 受付先：颯娃小学校
  - 期間等：H31.5.1～H32.3.1

この記念事業につきましては、総予算の収入を本校の卒業生、保護者、地域の方々等有志の方による寄付金をもってこれに充てることとなります。また、ご寄付いただいた方々には、記念リーフレット（若しくは、記念誌）等をお届けする予定でおります。

皆様方におかれましては、時節柄何かと出費多端の折とは存じますが、創立記念の趣旨をご理解いただきまして、温かいご理解とご賛同をいただき、颯娃小の子供達のため、母校颯娃小学校のために格別のご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

平成31年3月吉日

### 【実行委員会有志】

委員長：福永 俊郎（第32代颯娃小学校PTA会長）

実行副委員長：中村 利和（郡地区公民館事務局長、学校評議員）

高田耕一郎（学校応援団コーディネーター、学校評議員、歴代PTA会長）

田宮日出男（南九州勝縁こども園園長、学校評議員、歴代PTA会長）

瀧上 淳（第32代PTA副会長）

実行委員：樋渡 洋男（前原自治会長、郡地区公民館総務部副部長） 瀬川 文夫（瀬谷自治会長）

福元 盛光（郡地区民生委員代表）

岡元 友幸（颯娃校区子連会長、歴代PTA会長）

松久保浩一（郡地区消防防犯部長、歴代PTA会長） 大迫隆一郎（郡地区青年部長）

谷川 寛（地域有識者、南九州市文化協会会長）

推進専門部長：総務部・濱崎 隼人（PTA生活指導部長） 広報部・川田 貴樹（PTA広報研修部長）

事業部・瀬川 浩二（PTA環境整備部長） 財務部・有村 純一（PTA保健体育部長）

監 事：福吉 信義（麓自治会長、歴代PTA会長）

福吉 良夫（上大久保自治会長、郡地区公民館総務部長）

顧問：今吉 賢二（南九州市議会議員、学校評議員）

坂口 高則（郡地区公民館 高齢者クラブ代表）

石田 稔（地域有識者、元地区民生委員）

松久保信雄（地域有識者、元颯娃町議会議員）

山内 廣行（地域有識者、元颯娃町長、同南九州市副市長）

事務局：嶽 正輝（第32代PTA副会長）

松澤 昌代（第32代PTA副会長）

吉原 誠一（第32代PTA書記）

新山 里英（第32代PTA会計）

有村 泉（保護者、郡地区公民館書記）

学 校：草留 久之（第50代校長・顧問）

雨田まゆみ（教頭・事務局長）

棚瀬 淳也（教務主任）

三原 俊宏（生徒指導主任）

豊留 良子（保健主任）

野元 大輔（PTA書記・学校代表）

吉元 英志（PTA会計・学校代表）